

第27週の発生動向(2007/7/2~2007/7/8)

1. 咽頭結膜熱については、上十三保健所管内において第14週から、むつ保健所管内では第16週から、**警報**が継続しています。
2. 伝染性紅斑については、むつ保健所管内において新たに、**警報**が出されました。
3. ヘルパンギーナについては、青森市保健所管内において新たに**警報**が、弘前保健所管内においては、第26週から**警報**が継続しています。

第27週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

保健所名 疾患番号・疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点
(100) インフルエンザ	2	0.14											2	0.03	-13			2	0.17
(72) RSウイルス感染症															0				
(73) 咽頭結膜熱	2	0.22	3	0.33	2	0.22			11	1.83	4	1.00	22	0.52	-13	1	1.00	1	0.13
(74) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	0.78	18	2.00	3	0.33	4	0.80	7	1.17	2	0.50	41	0.98	3			7	0.88
(75) 感染性胃腸炎	30	3.33	9	1.00	7	0.78	6	1.20	9	1.50	20	5.00	81	1.93	25	3	3.00	27	3.38
(76) 水痘			3	0.33	6	0.67	10	2.00	11	1.83	11	2.75	41	0.98	-3				
(77) 手足口病	5	0.56	2	0.22			3	0.60					10	0.24	5			5	0.63
(78) 伝染性紅斑					3	0.33					8	2.00	11	0.26	0				
(79) 突発性発しん	5	0.56	5	0.56	1	0.11	2	0.40	3	0.50	9	2.25	25	0.60	4	2	2.00	3	0.38
(80) 百日咳															-1				
(81) 風しん															0				
(82) ヘルパンギーナ	69	7.67	68	7.56	2	0.22	2	0.40			10	2.50	151	3.60	57			69	8.63
(83) 麻しん(成人を除く)															0				
(84) 流行性耳下腺炎	11	1.22	2	0.22	11	1.22	6	1.20	1	0.17	1	0.25	32	0.76	-8			11	1.38
(86) 急性出血性結膜炎															0				
(87) 流行性角結膜炎	2	1.00			2	1.00	1	1.00	2	1.00			7	0.64	5			2	1.00
(95) マイコプラズマ肺炎					3	3.00					2	2.00	5	0.83	0				

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	基幹
東地方	2	1	1	0
弘前	15	9	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
青森市	12	8	4	2
合計	65	42	23	11

は警報
 は注意報
 「空欄」: 患者発生数 0

表 以外の感染症法対象疾患 (19年計には、今回届出された人数を含む) 報告数は速報値です。

- (9) 結核(二類全数把握疾患) 各保健所管内: 八戸:1人,五所川原:1人,むつ:1人,青森市:1人(19年計:68人)
- (29) つつが虫病(四類全数把握疾患) 上十三保健所:1人 (19年計:7人)
- (55) 梅毒(五類全数把握疾患) 弘前保健所:1人 (19年計:2人)

感染症の窓

麻しん

警報レベル保健所あり
 注意報レベル保健所あり

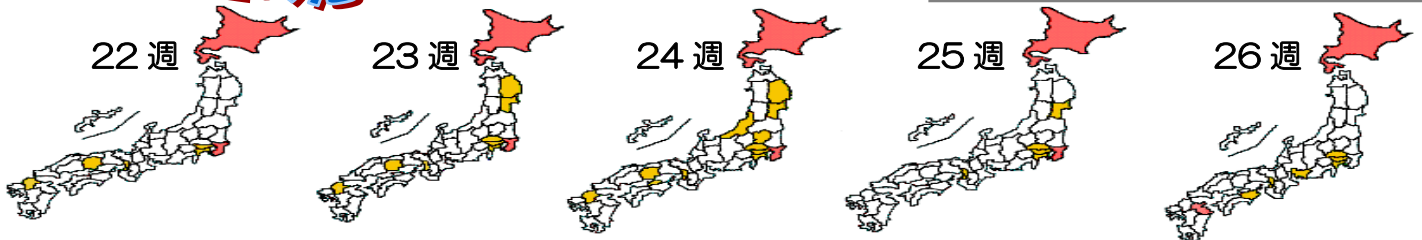


図1 患者情報(過去5週間の警報・注意報発令状況)

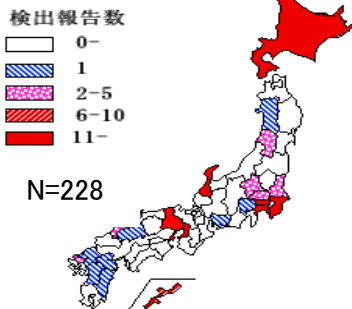


図2 麻しんウイルス分離・検出情報 (2007年1月~7月) IASR

全国的な患者発生状況については、関東以南に見られていた警報・注意報発令ありの都道府県が、第23週以降、東北地方にも見られています(図1)。また、北海道では、5週連続で、警報を発令する保健所があります。本県の感染症発生動向調査では、小児科定点把握疾患である麻しん(15歳以上を除く)の報告はありませんが、青森市(5月)八戸市(7月)の大学や高校などにおいて、本疾患による発症者が、報道発表されていることから、今後も引き続き、注意が必要です。なお、国立感染症研究所提供の病原体情報では、22都道府県で麻しんウイルスが検出されています(図2)。本疾患は、**飛沫により感染**することから、今後、夏休み等で帰省する方は、感染者には近づかず、感染したら、外出を控え、早めに医療機関を受診しましょう。